

○水生生物モニタリング調査結果一覧（宇多川C）

<宇多川C 水質底質採取項目>

項目 調査地点	一般分析項目		放射性物質分析項目			
	水質	底質	水質 (Cs)	水質 (Sr)	底質 (Cs)	底質 (Sr)
C-6	○	○	○	○	○	○

<宇多川C 現場測定項目>

項目 調査地点	調査緯度・経度		調査日時			水質	底質				その他	
	緯度	経度	日	時刻 (水)	時刻 (泥)	水温 (℃)	泥温 (℃)	性状	色相	混入物	全水深 (m)	透視度 (cm)
C-6	37.7764°	140.8877°	H30.8.28	11:32	11:55	22.1	23.0	砂	2.5Y4/4	なし	0.45	>50

<宇多川C 一般分析項目・放射性物質分析項目 水質>

項目 調査地点	調査緯度・経度		調査日時		pH	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	DO (mg/L)	電気伝導率 (mS/m)	塩分	TOC (mg/L)	SS (mg/L)	濁度 (度)	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)	Sr-90 (Bq/L)
	緯度	経度	日	時刻												
C-6	37.7764°	140.8877°	H30.8.28		7.5	0.8	3.4	8.7	9.7	0.06	1.3	2	2.0	N.D. (0.0013)	0.010	0.00084

注) N.D. は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

<宇多川C 一般分析項目・放射性物質分析項目 底質>

項目 調査地点	調査緯度・経度		調査日時		pH	酸化還元電位 E <sub>N.H.E</sub> (mV)	含水率 (%)	IL (%)	TOC (mg/g-dry)	土粒子の密度 (g/cm <sup>3</sup> )	粒度組成							Cs-134 (Bq/kg-dry)	Cs-137 (Bq/kg-dry)	Sr-90 (Bq/kg-dry)
	緯度	経度	日	時刻							礫 (2~75mm) (%)	粗砂 (0.85~2mm) (%)	中砂 (0.25~0.85mm) (%)	細砂 (0.075~0.25mm) (%)	シルト (0.005~0.075mm) (%)	粘土 (0.005mm未満) (%)	中央粒径 (mm)			
C-6	37.7764°	140.8877°	H30.8.28	11:55	7.4	299	20.0	1.6	1.4	2.685	16.6	47.4	34.2	1.0	0.8	1.1	4.8	15	140	0.66

注) N.D. は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

<宇多川C 分析項目 水生生物>

地点	採取場所	調査緯度・経度		採取日	門	綱	目	科	学名	和名	個体数	採取重量 (kg-wet)	特記事項			放射性セシウム(Bq/kg-wet)			Sr-90 (Bq/kg-wet)
		緯度	経度										成長段階	消化管内容物	測定部位	計	Cs-134	Cs-137	
C-6	宇多川本流	37.7764°	140.8877°	H30.8.25	藻類・植物	—	—	—	—	河床付着物 (藻類を含む)	—	0.0090	—	—	—	67.6	5.6	62	—
					藻類・植物	接合藻	ホシト <sup>ロ</sup>	ホシト <sup>ロ</sup>	<i>Spirogyra</i> sp.	アオミドロ属	—	0.15	—	—	—	3.6	N.D. (2.1)	3.6	—
					節足動物	昆虫	トンボ	エゾトンボ	<i>Macromia amphigena amphigena</i>	コヤマトンボ	120	0.016	幼虫 (ヤゴ)	—	—	4.0	N.D. (2.4)	4.0	—
					節足動物	昆虫	トンボ	オニヤンマ	<i>Anotogaster sieboldii</i>	オニヤンマ									
					節足動物	昆虫	トンボ	サエトボ	<i>Meligomphus viridicostus</i>	オナガサナエ									
					節足動物	昆虫	トンボ	サエトボ	<i>Sieboldius albardae</i>	コオニヤンマ									
					節足動物	昆虫	トンボ	サエトボ	<i>Davidius</i> sp.	ダビドサナエ属									
					節足動物	昆虫	トンボ	サエトボ	<i>Asiagomphus melaenops</i>	ヤマサナエ									
					節足動物	昆虫	トンボ	ヤンマ	<i>Boyeria maclachlani</i>	コシボソヤンマ									
					節足動物	軟甲	エビ	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>	アメリカザリガニ	1	0.014	成体	—	—	5.5	N.D. (2.9)	5.5	—
					節足動物	軟甲	エビ	テガ <sup>カ</sup> エビ	<i>Palaemon paucidens</i>	スジエビ	103	0.061	成体	—	—	6.5	N.D. (3.6)	6.5	—
					節足動物	軟甲	エビ	ヌマエビ	<i>Paratya improvisa</i>	ヌカエビ	891	0.17	未成体	—	—	6.7	N.D. (1.7)	6.7	—
					節足動物	軟甲	エビ	モクス <sup>カ</sup> ニ	<i>Eriocheir japonica</i>	モクスガニ	3	0.029	未成体	—	—	10	N.D. (1.6)	10	—
					脊椎動物	硬骨魚	ウナギ	ウナギ	<i>Anguilla japonica</i>	ニホンウナギ	1	1.4	成魚	空胃	内臓除去	51.5	5.5	46	0.076
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Tribolodon hakonensis</i>	ウグイ	3	0.011	未成魚	—	—	11	N.D. (3.3)	11	—
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Opsariichthys platypus</i>	オイカワ	27	0.16	未成魚	—	—	12	N.D. (2.1)	12	—
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Pseudogobio esocinus esocinus</i>	カマツカ	4	0.038	未成魚	—	—	5.2	N.D. (1.3)	5.2	—
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Candidia temminckii</i>	カワムツ	20	0.12	未成魚	—	—	6.4	N.D. (2.2)	6.4	—
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Hemibarbus barbus</i>	ニゴイ	2	0.012	未成魚	—	—	4.1	N.D. (3.9)	4.1	—
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	ド <sup>ジ</sup> ョウ	<i>Cobitis biwae</i>	シマドジョウ	25	0.049	未成魚/成魚	—	—	6.3	N.D. (1.4)	6.3	—
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	ド <sup>ジ</sup> ョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	ドジョウ	6	0.0086	未成魚	—	—	N.D.	N.D. (3.5)	N.D. (3.3)	—
					脊椎動物	硬骨魚	サケ	アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>	アユ	39	0.32	未成魚	—	—	19.4	1.4	18	—
					脊椎動物	硬骨魚	ス <sup>ズ</sup> キ	ハセ	<i>Rhinogobius fluviatilis</i>	オオヨシノボリ	42	0.040	未成魚/成魚	—	—	8.4	N.D. (1.3)	8.4	—
					脊椎動物	硬骨魚	ス <sup>ズ</sup> キ	ハセ	<i>Rhinogobius nagoyae</i>	シマヨシノボリ									
					脊椎動物	硬骨魚	ス <sup>ズ</sup> キ	ハセ	<i>Tridentiger brevispinis</i>	ヌマチチブ	2	0.022	成魚	—	—	13	N.D. (1.9)	13	—
					脊椎動物	頭甲	ヤツ <sup>メ</sup> ナギ	ヤツ <sup>メ</sup> ナギ	<i>Lethenteron reissneri</i>	スナヤツメ	9	0.031	アンモニア幼生	—	—	4.3	N.D. (1.3)	4.3	—
										粗粒状有機物	—	—	—	—	—	—	0.23	—	—

※1：生物は、当該調査水域またはその周辺で採取したものである。

※2：水生生物を複数採取できた場合は、これらを混合して試料とした。

※3：複数種の混合試料においては、最も多く採取できた優占種を、和名に下線で示した。

※4：生物試料は、全個体を測定することを原則とするが、消化器系に残留した未消化の餌料や底泥等は測定しないよう、内臓（胃、腸）の除去が可能な試料については、除去して測定した。

※5：プランクトン（浮遊藻類）とは、湖沼水または海水を40μmのプランクtonネットで濾した残留物を指す。

※6：河床付着物（藻類を含む）とは、石に付着した藻類をブラン等で掻き落としたものであるが、無機態のシルト・粘土等の微細粒子が含まれることがある。

※7：N.D. は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

※8：放射性物質濃度の数値には計数誤差等が含まれているが、本報においては記載していない。